

質 問 事 項	質 問 の 要 旨
1 震災から5年、防災設備の再確認を	4月、熊本、大分を震源とする大地震が発生。マグニチュード6.5、マグニチュード7.3、震度7をはじめとする震度5～6の地震が続発しました。
	スマトラでは、大地震の5年後に余震があったといい、東日本大震災から5年を過ぎた今でも、油断があつてはなりません。
	熊本地震に関しては、我が女川町からも職員が馳せ参じており、震災の教訓を伝えてきたと思います。
	そこで、翻って、再度女川町の防災対策について、点検、検証したいと考え伺います。
	(1) 震災時、大規模な緊急貯水槽は全く役に立ちませんでした。幸いなことに女川は各地域ごとの水資源に恵まれています。この資源を生かした、水の確保対策はどう進んでいますか。
	(2) 災害用トイレの配備、例えば、駅前商店街、今後整備される公共施設への配備はどう考えていますか。
	(3) 備蓄食糧の消費期限を把握し、有効活用してはいかがですか。(防災訓練時に消費する。あるいはフード・ドライブ、フード・バンクに提供するなど)
	(質問の相手：町長・担当課長)

質 問 事 項	質 問 の 要 旨
2 心地よい民泊のルール作りを	「ツール・ド・東北 2016」において、一般住宅に参加者を泊める「民泊」の協力家庭を募集する記事が新聞に載りました。
	4 月 1 日、国は規制を緩和し、大田区では逸早く特区民泊が始まりました。
	しかし、東京都中央区、長野県軽井沢町のように、「民泊」を認めない自治体もあります。マンションのまた貸しや、利用者のごみ出し、夜中の騒音など、近隣との揉め事も多く起きています。
	交流人口を増やし、利用者も受け入れる側も気持ちのよい関係が築けるよう、今のうちからルール作りを進めてはどうですか。
	(質問の相手：町長・担当課長)
3 大沢冠水対策の取り組みは	2つの砂防ダムが満杯。満潮時に水が捌けない。
	竹が折れて、川に落ち、それが川の流れを阻む。どこから手をつけてよいのか、できる場所はどこか。
	県管轄が故に難しい面もあると思いますが、住民の不安に応える工夫を。
	(質問の相手：町長・担当課長)